（２）「英語科における即興性と正確性を高める授業の工夫」

四万十市立中村西中学校英語科
谷岡　大洋、森原　朋生

１．主題設定の理由

本年度、中村西中学校では研究主題を「生徒が本気で取り組み、力をつける授業づくり～対話や議論を生む課題設定の研究を通して～」と設定した。英語科では、「生徒が本気で取り組む授業」を展開するため、これまでより少しハードルを上げて単元ゴールを設定することを確認した。そして、「力をつける授業」として、令和２年度より施行される学習指導要領・外国語科の目標で示される「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質能力」を生徒がつけるべき力と捉え、『即興性と正確性を高める授業の工夫』を研究テーマとして設定した。

２．研究内容

本校は縦持ちの指定を受け、各学年（２クラス）で２名の英語担当教員が授業を行っている。週に１回以上英語部会を行い、単元ゴールや授業展開、評価問題について打ち合わせを行った。その中で特に即興性や正確性を高めるために行った活動について紹介する。

（１）帯活動

①Question Time

１学期は帯活動として、Question Time を行った。これは、英語で質問が書かれたカードを生徒全員が持ち、１分間でできるだけたくさんの生徒や教師、ALT と質問をし合うという活動である。生徒が持つカードは一人一人違うもので、学年や学習内容によって質問の内容を変えていった。Question Time を行うことにより、質問を聞き取りすぐに応答するという力がついた。

②Talk & Report

２学期からは Talk & Report という活動を行った。これは、一つのテーマについてペアで１分間話し、話した内容をレポートするという活動である。例えば、A: What did you do this weekend? B: I went to Kochi to watch a movie.という会話をした後に、A が“B went to Kochi to watch a movie.”とレポートするといった具合である。話した内容についてはすぐにノートに書き、英語教師や ALT が語彙や文法についてチェックした。そして、定期テストやパフォーマンス・テストでもこれらの質問について答える評価問題を出した。この活動は既習事項の復習に使える他、教科書本文や文法事項の導入としても使用できる活動である。

（２）単元ゴールの設定

単元ゴールを設定する上で配慮したことは、生徒にとって身近で具体的な内容を提示することである。そして、学習が進むにつれて少しずつハードルを上げ、生徒が新しいことにチャレンジできる単元ゴールとした。

（３）授業展開

授業展開について、研究主題に基づいて実践した授業レポート２本を紹介する。

教科実践レポート①（授業者：森原朋生）

２年生　英語　Sunshine English Course 2　Program7 “If You Wish to See a Change”

《研究実践のポイント》

◎生徒が本気で取り組める課題設定の工夫

◎ペア学習で即興性や正確性を高める活動の工夫

１．生徒が本気で取り組める課題設定

Program7 “If You Wish to See a Change”は、1992 年にブラジルのリオで開催された地球環境サミットでスピーチを行った 12 歳の少女セヴァンが、当時を振り返る内容となっている。これまでこの単元を扱う際には、本文の内容を読み取り、簡単な感想を書くといった授業展開を行ってきたが、新学習指導要領に示される「書くこと」－（ウ）社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。を目標とし、次のような単元を設定した。

＜Final Goal＞　セヴァンのスピーチを聞いたり読んだりして、感想や自分の考えを書こう！

この課題設定は、生徒にとっては少し難易度が高いと感じたが、ハードルを上げて挑戦させることが、生徒が本気で課題に取り組むために必要であると考えた。

授業ではまず実際にセヴァンのスピーチの映像を視聴した。生徒は、自分と同じ年頃の少女が各国の代表を相手に堂々とスピーチする姿や、環境問題に対する意識の高さを目の当たりにし刺激を受けたようである。次に、ワークシートを用いて本文の内容理解を行った。この際、逐語訳をするのではなく、大まかに意味を捉えることを優先して英語と日本語が対応したワークシートを使用した。そして、本文の中で自分が印象に残った部分に下線を引いていく。この作業を通じて、主体的に課題に取り組む姿勢が高まってきた。

２．即興性・正確性を高める活動

即興性を高める工夫として、Word Counter（ワード・カウンター：右図）を使用した。これは、テーマを与え、１分間でどれだけの語数を話すことができたか、ペア同士でカウントして記録するというものである。このシートを使用することで、生徒は自身の発話量の伸びを感じることができ、意欲の向上につながる。そして、教師は中間評価として生徒に発表をさせ、モデルとなる表現を板書していく。また、言いたくても言えなかった表現を拾い、どのように言えばよいのか全体で考えさせる。それらを参考にしながら生徒は次のペアと同じ活動を行う。このような“Do – Learn – Do again”の活動を繰り返すことで、英語での表現の幅を広げ、正確性を高めていこうと試みた。

Word Counter　grade　class　name

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101
121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140
160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141
161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180
200	199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181

Date	Topic	WPM	Date	Topic	WPM

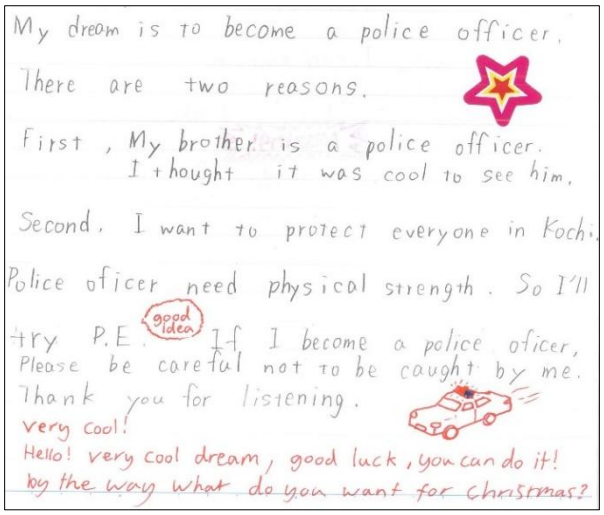
また、この単元では、セヴァンのスピーチについて感想を書くためのフォーマット（ひな型）を使用した。まず、①印象に残った部分を引用する、②それに対してどう思うか書く、そして、③自分自身がこれからどうしていかなければならないか書く、といった①～③へとつながる文章構成を示した。このことにより、文章を書くこと自体が苦手な生徒も含め、最終的に生徒全員が感想文を書くことができた。そして、生徒が書いたエッセイ（英作文）の中からモデルとなるものを選び、２つのクラスで読み合い共有する。これは、どの学年でも行っていて、生徒同士の刺激になるのはもちろんであるが、１，３年生については、縦持ちであるため英語教員のゴール・イメージのすり合わせの役割も果たしている。（参照：セヴァンのスピーチに対する感想文）

Hello. I will tell you about Severn's speech. What do you think of Severn's speech? I think it is amazing. Because her words moved the world.

She said "Why are we still so greedy?" I think she was thinking of the environment more than other adults when she was only 12 years old. I was

Hello. I will tell you about my opinion of Severn's speech. Have you heard of Severn? She was twelve years old. She said "If you can't fix the environment, please stop breaking it!" I think it is wonderful. Because she spoke to the

生徒が書いた感想文は教師が添削をし、ALT の Levi 先生とのジャーナル（交換日記）として提出する。Levi 先生は改めて英語のチェックをし、さらに生徒の感想文についてコメントを記入してくれる。生徒はそのコメントを読むことで、生きた英語に触れることができ、英語学習への意欲が高まっていく･･･という好循環を期待している。(参照：Levi 先生とのジャーナル、テーマ「将来の夢」)


My dream is to become a police officer.
There are two reasons.
First, My brother is a police officer.
I thought it was cool to see him.
Second, I want to protect everyone in Kochi.
Police oficer need physical strength. So I'll try P.E. good idea
If I become a police oficer, Please be careful not to be caught by me.
Thank you for listening.
very cool!
Hello! very cool dream, good luck, you can do it!
by the way what do you want for christmas?

３．成果と課題

まず、ハードルの高いゴール設定だったにも関わらず、全員が意欲的に取り組めたことが大きな成果である。これは、日頃から行っているペア活動で、生徒同士誰とでも交流ができていることや、相手の言っていることをしっかりと聞き参考にすることで、学習に対する前向きな態度が育っていることが要因として考えられる。２学期末に行った授業評価アンケートでも、肯定的評価が 96.2%と高かった。また、２学期の期末テストの表現問題では、A 評価が 49%、B 評価が 38%、C 評価が 13%、同じくパフォーマンス・テストでは A 評価が 58%、B 評価が 40%、C 評価が 2%であった。(すべて 2 年生)

一方で、12 月に行われた高知県学習定着状況調査（自校採点）では全国平均を大きく下回る結果となった。項目別に分析すると、テーマ作文では目標とする語数を超えて英作文することができているが、その正確性が低く、語彙やリスニングの力が定着していないといった結果が出た。これまでに培った英語学習に対する意欲をさらに向上させ、それを補完する知識や技能を身に付けさせることができるよう、単元ゴールの設定や単元計画の工夫、学習内容の徹底について研究を続けたい。

授業実践レポート②（授業者：谷岡大洋）

３年生　英語　Sunshine English Course 3　Program 3　The 5 Rs to Save the Earth

≪研究実践のポイント≫

◎即興的な表現力を高める活動の工夫

◎正確性を高める授業づくりの工夫

◎主体的な言語使用となるための単元ゴールと場面設定の工夫

１．単元ゴールの設定

本単元の教科書本文の内容が、「５Rs」についての登場人物のやり取りを通じて、身近な環境問題について考えるものとなっている。そのため、この単元ゴールとして、生徒たちが環境問題に対する自身の意見を書くことをゴールとすることにした。また、「対話的な学び」の１つの要素とするため、四万十市の ALT に身近な環境問題に対する意見文を書いてもらい、それを読んで、自分の意見を「賛否」「理由」「根拠」を示しながら返信として書き、実際にそれぞれの ALT に読んでもらうことを単元ゴールと位置付け、生徒と共有した。

＜Final Goal＞　環境を守るための ALT の意見文を読んで、返信を書こう！

ALT の意見を読んだり、友だちが書いた意見を読みながら自分の表現を広げたり、深めたりすることで、新学習指導要領に示される「英語科における見方・考え方」を働かせることを目指した。

２．即興性を高める活動　☆「困り感」と中間評価

３年生に限らず、「与えられたテーマについて即興で話す」活動を全学年で行っている。短い時間で言いたいことや考えをまとめ、最初はほぼヒントもない状態でペア活動でアウトプットをしていく（困り感）。その活動の様子や、発話の内容を注意深く観察し、特に良かったペアを指名して、モデルとして発表させる。その発表の中でも特に良かった表現や、工夫が見られるポイントなどを板書することで、次のターンでパートナーを替えた時に、前に書かれている表現を自分なりに取り入れながら、自分の意見をレベルアップさせるという流れを３ターン行う。この“Do – Learn –Do again”の活動によって、即興的にアウトプットする能力と、表現の幅を広げていくことをねらいとした。

３．意欲の向上と内容のレベルアップを目指して

「１」でも紹介したとおり、本単元では、話す内容、書く内容が環境に対する意見文と難しいため、言語（表現）の材料や、考え方の材料も必要になった。しかし、教師側でゴールイメージのモデル文を作って配布してしまうと、「モデル」ではなく「フォーマット」となり、ほとんどの生徒が同じような内容、表現となるため、面白味に欠けてしまう。そのため、前の時間のノート点検の中から特に内容の良かったものをワークシートにまとめ、配布するようにした。生徒達にとっては身近な友だちが書いた意見や表現であることから、難しい内容でも「読む意欲」が湧き、単元を通してそれを繰り返したことで、良い表現を使って良い内容の意見文を書こうという「書く意欲」にも繋がった。

友だちの意見を授業の最初に読み、次のテーマについて話したり、書いたりして、他者の意見や表現を自分なりに取り入れていき、内容のレベルアップに繋げることができた。

以下が配布したワークシートから抜粋した、“Your Friends’ Opinions”である。

Hello! How are you? I’m fine. I read your email. I think your idea is very good. You wrote “I think repair is the 5th R.” I agree with you. Because repairing is as important as 4Rs. So repairing things is necessary. We must be friendly to the earth.

I want Shimanto people to protect nature. I have two reasons. First I think many people are wasteful now. Second, people throw away many things. First of all, I want Shimanto people not to throw away.

４．成果と課題

難しいテーマではあったが、生徒達はALTが書いてくれた意見文をよく読んで、自分なりの意見を根拠を含めながら書けており、学年全体でも評価が「C」（４０％以下）の生徒はいなかった。また、既習の表現や文法事項を活用している生徒も多く、根拠や自分の生活や経験も踏まえながら、意見を書くことができた。

その反面、英文の精度という点では課題が残り、それぞれの学力調査などでも課題に挙がっている、語彙力や基本的な文法の定着という点には、今後の改善の必要がある。「ペアで話す→中間評価→アウトプットのレベルアップ→ノートに書く→教師やALTがチェック」という流れの中で、正確さを高めていきたかったが、十分ではなかった。チェック後のノートをさらに次の授業で活用することなどを今後の工夫点、改善点にしていきたい。

最後に、パフォーマンス・テストとして生徒がALTとやり取りをした意見文の内容を紹介する。

Dear Madeleine,
Hello! My name is ～ . I read your letter. You wrote "I think it's important to protect the environment." I think so too. Because we live on the earth.
By the way, I have another opinion. I think to protect plants and trees is good. Because they can produce O2 from CO2. If we cut down many trees, the earth won't be beautiful. And river, mountain and sea will become dirty. So we must protect the earth and the environment. Do you think my opinion is good?

Hello, ~,
Thank you for reading my letter.
Your opinion is great! I love trees very much. They are very important for the earth. In Australia, we try to plant new trees regularly. Do you plant new trees in Japan?
Thanks again, Madeleine.

このように、自分が話したり書いたりしたことに対して返事をもらうことで、「相手意識」を持った活動になり、生きたコミュニケーションとなる。それが生徒のモチベーションにもなり、主体的な学びとなると考えられるため、今後も単元ゴールの設定や単元計画を立てる段階で、さらに改善していきたい。

（４）評価問題

単元ゴールに向けて授業実践を重ね、それを評価するための評価問題について記述する。実際は、英語部会で単元ゴールと評価問題をセットで考え、日々の授業展開でスモール・ステップを踏んで単元ゴールや評価問題に対応できる力をつけるバックワード・デザインを行ってきた。

①定期テスト表現問題

定期テストの表現問題は、単元ゴールで取り扱った内容をもとに作成した。その際、生徒にとって初出の問題となるよう、単元ゴールとは違う題材を使用した。例えば３年生で「Program4 "Faithful Elephants"を読んで感想文を書こう」を単元ゴールとして設定した際には、定期テストでは「保護猫・犬について書かれた新聞記事を読んで感想を書く」とし、授業で学んだ表現を活用しながらも、自分なりの考えをその場で考える必要がある評価問題にした。

②パフォーマンス・テスト

パフォーマンス・テストも同様に、単元ゴールで取り扱った内容をアレンジして作成した。マッピングやメモを見て即興的にスピーチをするといった内容であるため生徒は緊張して臨むが、授業で学んだ内容を活用できるため、何とか会話を続けようと努力していた。

３．成果と課題

（１）授業評価アンケート

２学期末に実施した授業評価アンケートでは、肯定的評価が１年生 96.0%、２年生 96.2%、３年生 98.5%と高かった。授業に対する自由記述でも「代名詞や疑問詞を活用した文が書けたり、自己紹介、キャラクター紹介などで色々な表現方法も分かった」、「英語を話すことはけっこうできるようになったけど、まだ書くことができていないのでその力をつけたい」（１年）、「友達の文を読んだり聞いたりして、良い表現があったら参考にすることができた」、「授業中に自分の考えを相手に伝えたりすることができた」（２年）、「英作文が苦手で間違ってしまうのでそこを強化したい」、「Talk & Report で話せるようになった」（３年）など前向きに取り組んでいる様子が分かる。

（２）定期テストの表現問題（２学期期末テスト）

	内容	A 評価	B 評価	C 評価
１年	メモをもとに四万十市の良いところについて紹介する	25%	65%	**10%**
２年	第三者の将来の夢について紹介する	49%	38%	**13%**
３年	保護猫・犬についての新聞記事を読んで感想を書く	54%	46%	0%

定期テストの表現問題についてはルーブリック（評価規準）を明らかにし、ALT に採点をしてもらった。ほとんどの生徒が目標とする語数を超えて英作文できた。しかし、１年生で A 評価の割合が少ないこと、１，２年生で C 評価が 10%ほど出たので、全体及び個別の支援が必要である。

（３）パフォーマンス・テスト（２学期期末テスト）

	内容	A 評価	B 評価	C 評価
１年	四万十川についてメモをもとに紹介する	58%	42%	0%
２年	第三者の将来の夢についてメモをもとに紹介する	58%	40%	**2%**
３年	AI ロボットについてメモをもとに紹介する	78%	22%	0%

パフォーマンス・テストでも同様に、ルーブリック（評価規準）を示してインタビュー形式でのパフォーマンス・テストを実施した。特に３年生は A 評価の割合が高く、これまでに学習した内容が統合され、既習事項を生かして即興的なやり取りができるようになっている。

４．来年度に向けて

第２学年で実施した GTEC においては、リーディング（読む）、ライティング（書く）、スピーキング（話す）について、公立中学校の平均を上回る結果となった。特にライティングの力が高いという結果（A1.3 レベル）が出たのは、これまで即興的に話したことを書くことを繰り返した成果と言える。

一方で、高知県学力学習状況調査（自校採点）においては、基礎・基本の定着が不十分であるという結果が出た。これは、本校において「話すこと」、「書くこと」に重点をおいた指導をしてきたため、語彙や文法といった基礎・基本の内容を復習する時間や機会の設定が不足していた結果だと分析している。そこで、２学期末より、１年間の総復習として、授業の最後の５分を利用してプリント学習をしたり、家庭学習において総復習問題に取り組んだりしている。

活用的な内容にチャレンジすることで生徒の意欲的な態度を育ててきたが、それと並行して基礎・基本の内容に取り組んでいくことで、生徒の学力をより確かなものにしていきたい。